

第17回愛媛県接触嚥下研究会プログラム

日時：平成29年5月14日(日)10:00～13:00

場所：松山市男女共同参画推進センター（コムズ）5階 大会議室／愛媛県松山市三番町6丁目4番地20

参加費：1,000円

※特別講演は日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士セミナー5単位に認定されております。

※特別講演②は耳鼻咽喉科領域講習1単位に認定されております。

情報提供

10:00～10:15

● 「経腸栄養管理に関する最近の話題」

株式会社大塚製薬工場

教育講演

10:15～10:45

● 座長：宮本圭人先生（新居浜十全総合病院）

『嚥下調整食の標準化にみる誤嚥性肺炎の減少効果 ～「嚥下食地域連携勉強会」による食のマネジメント』

松山東雲短期大学 食物栄養学科 非常勤講師 藤井 文子 先生

一般演題

10:45～11:15

● 座長：小島 直彦先生（こじま内科）

1. 脳卒中に伴う嚥下障害患者の経管栄養から 経口摂取移行の要因について

○ 溝田 萌音 永江 拓朗 上甲 隆敏 吉田 直彦
(同仁会 おおぞら病院 リハビリテーション部)

2. 胃瘻造設および喉頭気管分離術が誤嚥による 慢性肺疾患に及ぼす効果：経時的なKL-6測定による検討

○ 若本 裕之 河邊 美香 森本 武彦 (愛媛県立子ども療育センター 小児科)

3. 嚥下機能改善手術を行った頸椎動脈の延髄圧迫による 嚥下障害の1例

○ 田中 加緒里 瀬知 亜有未 飴矢 美里 山田 啓之 羽藤 直人
(愛媛大学医学部耳鼻咽喉科)

<休憩、ビジネスミーティング> 11:15～11:20

特別講演

● 司会：矢野 喜昭 先生（愛媛県立子ども療育センター）

11:20～12:00

1. 『小児の摂食嚥下リハビリテーション』

前 大阪発達総合療育センター リハビリテーション部
言語聴覚療法科 科長 中澤 優子 先生

12:00～13:00

2. 『乳幼児の摂食嚥下困難』

県立広島病院 小児感覚器科 主任部長 益田 慎 先生

共催 愛媛県摂食嚥下研究会 日本耳鼻咽喉科学会愛媛県地方部会
株式会社大塚製薬工場 イーエヌ大塚製薬株式会社

第17回愛媛県摂食嚥下研究会報告

平成29年5月14日(日)

松山市男女共同参画推進センター（コムズ）5階 大会議室



2017年5月14日、男女共同参画センター「COMS」にて、第17回愛媛県摂食嚥下研究会が行われました。今回からは松山市医師会の後援が得られ、また特別講演が日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士セミナー5単位、耳鼻咽喉科学会領域講習1単位に認められたこともあり、愛媛県下で摂食嚥下に関わる医療関係者の方たち約130名にご参加いただきました。

教育講演は、松山東雲短期大学にて非常勤講師をされている管理栄養士・藤井文子先生による「嚥下調整食の標準化にみる誤嚥性肺炎の減少効果」のお話でした。前任地である市立宇和島病院での嚥下食の標準化をはじめ、地域医療施設や家族などを対象とした勉強会や嚥下調整食冊子作成、料理教室などに取り組み、誤嚥性肺炎の減少に貢献された努力をお伺いすることができました。

特別講演は、「小児の嚥下」をテーマとして、県立広島病院小児感覚器科の益田慎先生に耳鼻咽喉科医の立場から、中澤優子先生に言語聴覚士の立場から、それぞれお話しいただきました。中澤先生からは、ボバース概念の神経発達学的アプローチに基づき、長年の経験から確立された小児の摂食嚥下リハビリテーションのアプローチ方法についてお話をしていただきました。人形を用いて、リハ介入時の姿勢の取り方、摂食の方法など、実践的かつ具体的な手技について学ぶことができました。益田先生からは、首の座らない乳児の姿勢の特徴や、姿勢による嚥下への影響について、内視鏡検査や造影検査による多角的評価結果と共にご提示いただき、小児の発達や障害に合わせたアプローチの必要性を学びました。嚥下障害の病態ごとに、姿勢の調整やスプーン介助のコツ、PAP装着の介入法など具体例をご教示いただき、非常に勉強になりました。

高齢化に伴い、嚥下障害患者・嚥下性肺炎の数が増加し、高齢者の嚥下障害が注目されていますが、実際には不慮の窒息死数は乳幼児、特に0歳において数少なからず報告されています。大人と違い、小児の場合は発達の遅れなのか障害なのかを見極めた介入の必要性について十分学ぶことができました。

今回の講演会では具体的手技を学ぶことができ、明日からの診療ですぐにでも実践できるお話を伺うこともできるなど、非常に学びの多い研究会となりました。